

# 2018年5月11日 第3243回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 小林 会長
- <斉 唱> 「君が代」「奉仕の理想」
- <唱 和> 「四つのテスト」
- <ゲスト紹介> \*医療法人社団松本歯科医院 理事長 松本好史様  
 \*株式会社横浜銀行横須賀支店 理事支店長 山田真悟様  
 \*東京海上日動火災保険(株)横須賀支社 支社長 中山尚様
- <誕生月祝> ・中村 正 (S.29.5.1) ・徳永良輔 (S.9.5.4)  
 ・福島康人 (S.18.5.15) ・高橋仁子 (S.14.5.19)  
 ・根岸文彦 (S.22.5.21) ・田邊一三 (S.26.5.23) 各会員
- <入会月祝> ・高橋秀行・長尾和典・岩瀬厚・藤村昌一  
 ・伊藤隆義・齋藤真且・小林一博・長堀薫  
 ・大竹孝憲・門井宏二郎・新倉良是 各会員
- <会長報告> \*第1グループ三役会 報告  
 \*国際ロータリー日本事務局より  
 ・ロータリーレート変更のお知らせ 5月1日より1ドル108円(現行104円)  
 \*ガバナー事務所より  
 ・地区「新会員の集い」のご案内について  
 5月26日(土) 16:00 開会 20:30 閉会

於：藤沢商工会館「ミナパーク」会議室

- <委員長報告> \*インターアクト委員会高橋委員長よりアクターズミーティング 報告  
 \*米山奨学生前川カウンセラーより米山奨学生オリエンテーション 報告  
 \*雑誌委員会 澤田委員長より ロータリーの友5月号  
 \*出席委員会 福西副委員長より 4月分出席報告4月分平均出席率 83.38%

	会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
4月 6日	110名	102名	69名	33名	21名	86.54%
13日	111名	98名	76名	22名	21名	96.04%
20日	114名	98名	72名	26名	7名	79.80%
27日	115名	97名	66名	31名	3名	71.13%

\*齋藤副幹事より第9回米海軍第7艦隊バンド&  
 横須賀交響楽団フレンドシップコンサートのお知らせ

- <幹事報告> \*例会終了後被選理事役員会開催(301研修室)
- <出席報告> \*出席委員会 福西副委員長より5月11日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
115名	101名	71名	30名	4名	74.26%

## <ニコニコ報告>

- ・佐久間 会員 松本好史先生ようこそ。今後よろしくおつき合い下さい。
- ・中村(田)、徳永、福島、根岸、田邊 各会員 誕生月祝いとして
- ・高橋(角)、長尾、岩瀬、藤村、伊藤、齋藤(眞)、小林(一)、長堀、新倉(良) 各会員 入会月祝いとして
- ・三 役 中村正会員、本日の新会員卓話よろしくお願い致します。
- ・岩崎、福西、角井、濱田、波島、新倉(良)、猿丸、渡邊、五十嵐、伊藤、江沢、長坂、勝間、瀬戸、岩瀬、加藤(博)、澤田、前田、山下、上原(公)、谷、白井、佐久間、高橋(博)、

外 崎、菅 野、鈴木(㊦)、石 田、鈴木(㊧)、杵 渕、齋藤(眞)、宮 島 各会員

中村正会員、本日の新会員卓話よろしくお願ひ致します。

- ・中村 正 会員 新会員卓話宜しくお願ひします。
- ・三 役 昨日より津久井浜にてウインドサーフィンワールドカップが開催されております。是非、会員の皆様には、開催地に足を運ばれますようお願ひ申し上げます。
- ・1番テーブル北村マスター、増田サブマスター 昨日、No. 1テーブルミーティングを小沢会員のご好意のもと12人で開催いたしました。皆様に1分スピーチを頂き、大いに盛り上がりました。
- ・藤 村、野 坂、吉田(㊦)、長 尾 各会員  
昨日、甲羅本店にて行われました1番テーブルミーティングでは北村M増田SMに大変お世話になりました。小沢会員、おいしいお料理とお土産もありがとうございました。
- ・4番テーブル井荻マスター、中村正サブマスター 小林会長にお越しいたき4番テーブルミーティングを開催しました。楽しい時を過ごしました。ありがとうございます。
- ・江 沢、加藤(㊦)、前 田、谷 各会員 5月8日、セッテにて4番テーブルミーティングが開催されました。小林会長にお越しいたき、楽しい時間を過ごすことができました。井荻マスター、中村正サブマスターありがとうございました。
- ・5番テーブル前川マスター、渡邊サブマスター 5番テーブルミーティングでは、岡田副会長、勝見幹事、小林SAA、三宅さんにもご参加いただき盛大に行われました。ご参加頂いた皆様の寛容な心に感謝です。高橋隆一会員にはなかなかお目にかかれない日本酒瀬祭の差入れをいただきサンキューです！！
- ・鈴木(㊦)、岩 瀬、高橋(㊦)、山田(㊦)、長 堀、齋藤(眞)、杉 山 各会員  
5月7日、ハニービーにて5番テーブルミーティングが行われました。大雨の中での開催でしたが大いに盛り上がりました。高橋隆一会員、お酒の差入れ、前川マスター小豆島のオリーブごま煎餅のお土産ありがとうございました。
- ・徳 永 会員 曾孫が生まれました。
- ・物 井 会員 先日は山下会員にたいへんお世話になりました。肩の荷が少しかるくなりました。ありがとうございます。
- ・江 沢 会員 写真をいただいて

## <新会員卓話>

中 村 正 会 員

昨年の7月に入会させて頂きました、なかむら耳鼻咽喉科クリニックの中村と申します。今日は、新会員卓話と言うことで前々からお話があったのですが、何とか頑張って15分くらいで終わらせていきたいと思ひます。今日の卓話の内容は、簡単な自己紹介と人生にすごく影響を与えた航空自衛隊のパイロットだった父親の話、そして「君が代」誕生の際に中心的役割を果たした曾祖父中村祐庸(すけつね)の話をして頂きます。



私は昭和29年5月1日横須賀市逸見町で3人兄弟の末っ子として生まれました。生粋の横須賀人です。ちょうど10日前に誕生日を迎えたのですが、まだまだ若いと思っていましたがもう64歳になりました。まだ新婚3年目です。

逸見小学校、桜台中学校、昭和48年に県立横須賀高校を卒業しましたが、私の姉と兄、妻は四姉妹なのですが親戚家族すべて小中高校が同じです。もっと驚くのがみんな幼稚園も一緒なのです。小林会長や耳鼻咽喉科の江沢先生は横高の先輩ですが、兄は小林会長とは高校時代のクラスメイトで、そんな縁から小林会長とは親しくさせていただいている次第です。よく東京の友達と会う際に横須賀は遠いよなと言われますが、横須賀が遠いのではなくて東京が遠いのですよと言っております。

いずれ進次郎さんが首相になった際には、横須賀が首都になると考えております。

昭和47年、当時の田中角栄内閣が一県一医大構想という医師不足解消のための政策を打ち上げ、つくば法案を経てその施策に従い昭和48年に山形大学、旭川大学、愛媛

大学に医学部が新設されました。9月という中途の入学試験だったので模擬試験を受けるような気持ちで受験したところ、人生の運を使い果たしてしまったと思うほど運よく何と奇跡的に合格してしまいました。考えてもみなかった山形という雪深い中で6年間医学の勉強をし、色々苦労もありましたが、時にはスキーを楽しみ、同期の仲間とお酒を飲んだり騒いだり、まあ充実した大学生活を送ることができました。

学生時代には耳鼻咽喉科の研究室によく出入りしていました。別に耳鼻咽喉科に興味があったわけではなく、たまたまその医局に行くと、朝はコーヒーをタダで飲めるし、新聞も読める、夕方まで居座っていればご飯をご馳走してくれたり、とても感じのいい医局だと思ってました。実は新入医局員を確保するための策略だったこととは露知らず、私は研究室に入りびたりの毎日となり、卒業後、策略通り耳鼻咽喉科に入局することになりました。食事につられて自分の人生を決めてしまったのは概ね事実なのですが、でも、医者となってから教授の元で色々勉強させていただき耳鼻咽喉科の面白いところを堪能させていただきました。耳鼻咽喉科は中耳炎や鼻炎など軽い病気を診る科だと思っているかもしれませんが、実は頭頸部外科と言って甲状腺癌、舌癌、喉頭癌あるいは食道癌なども手掛ける診療科です。私も数千例の癌の手術を行ってきました。また私のライフワークである「めまい」の面白さを教えてくれたのもその当時の教授です。結局、約35年間も山形大学で臨床および研究を続けてまいりました。その間、2年間ロンドンの病院でめまいに関する臨床研究を行い、帰国後に助教授となり後進の指導や研究に励んでいましたが50歳になった時に一念発起して一番大切な故郷横須賀に帰りライフワークであった「めまい診療」の専門クリニックを開設した次第です。

私は今の仕事が天職だと思っていますが、実は医者になるということは私にとっては第二志望の人生なのです。実は高校時代までは医学の道に進むなどとは全く頭の片隅になく、子供の頃からパイロットになることだけが夢だったというか、その道しか全く考えていませんでした。これには父の影響が多分に作用しています。私の父、中村博は太平洋戦争真っ只中の昭和17年海軍兵学校を卒業し、霞ヶ浦海軍航空隊で航空機搭乗員としての初期訓練を経て、昭和18年に横須賀航空隊で零戦搭乗員として配属されました。この航空隊は日本で最も古い航空隊で各地から優秀なパイロット達、例えば坂井三郎中尉など多くの撃墜王たちが集まり若手士官の飛行指導も行っていたのですが、その中の一人が中村博でした。その後、実戦にも参加するようになりました。その当時の飛行記録が残っています。終戦で全て廃棄処分にはされたはずなのですがこっそり残っていたようで貴重な記録として私が慎重に保管しています。それによれば昭和19年12月にB29一機撃墜・一機撃破という記録があります。これを見ると大変な戦果を挙げたということでしょう。当時の零戦ではB29撃墜は難しいと思っていたのですが、よく調べてみると搭乗機は紫電で、あの当時の

新鋭機ですよ。彼は横須賀航空隊の実験航空隊にも所属していたのでいろんな飛行機を操縦していて、たまたまその新鋭機で迎撃を行ってB29を撃墜したということでしょう。

同期の半数近くが戦死した中、彼は運良く終戦まで生き残り、その後、昭和29年航空自衛隊創設と同時にパイロットとして入隊しました。その後、米国に飛行訓練を行うため留学し、厳しい飛行訓練を受けた後、航空自衛隊でF86ジェット戦闘機の初代教官となったのです。残念ながら昭和32年、私が3歳の時に浜松の基地で飛行機事故で殉職してしまいました。

私は子供の時から、そして今でも、父は憧れの的です。だからこそ父からの血筋を継いだ私がパイロットになることは至極当然で運命だと勝手に思っていました。本来は航空自衛隊航空学生になりたかったのですが、母親の反対もあり高校3年で航空大学を受験しました。学力検査は楽勝で受かったのもう大丈夫だと思っていたら、何と私の右目の裸眼視力が0.9で両眼裸眼視力1.0以上という基準に合致せずということだけで落とされました。今ならば、レーシックをすればよいのですが、その当時はいくら頑張っても視力が戻るわけではないので、天才パイロットの息子が落とされるわけではないという妄想を抱いていた若者の夢は無残にも消え去ったのです。

一応一般大学を受け合格したのですが将来に希望が持てず、入学は辞退してブラブラ浪人生活をしていました。その時に友達に言われたのです。「そんなに飛行機が好きならば自分で買えばいいじゃない。医者になれば儲かるぞ」などなど。考えれば非常に不謹慎なことですが、ちょうど山形大学に医学部が新設され時季外れの9月に入学試験があったので、温泉でも入ってのんびりして将来を考えようかなと思って山形に行き、まさについでに受験しました。どうせ受かるわけがないと思っていましたのでかなり気楽に試験を受けたことが良かったのか、何と37倍もの倍率の難関入試に受かってしまいました。これが全く予期していなかった私の第二志望の人生の始まりです。

これから君が代の話させて頂きます。なぜ軍楽隊が誕生したかという、生麦事件をご存知でしょうか。薩摩藩の島津久光公の大名行列に英国人の4名が再三の注意にも関わらず下馬せずに通り返しようとしたところ、護衛の武士たちに切り付けられた事件です。要するに無礼討ちですが、現代のテロ社会でも通用する対応でしょう。しかし当時の英国政府は犯人の処刑と賠償を薩摩藩に強く求めました。当然薩摩藩は要求を一蹴し断固として謝罪を受け入れませんでした。そこで英国政府は艦船7隻を錦江湾に集結させ砲撃を開始し、ここに戦争の火ぶたが切って落とされました。世に言う薩英戦争です。

ある朝、久光公が起きてみると錦江湾に浮かぶ敵艦船上で音楽隊が演奏して国旗を掲揚する姿が見えました。敵艦上から国旗掲揚で流れる妙なる軍楽の響きに久光公は驚きとあこがれを感じたのです。その思いが忘れられなかったのか、後に兵士の士気を鼓舞するために英国式の軍楽隊を創ることを決意したのです。

明治2年、久光公は後の陸軍大将となる大山巖に命じ、薩摩藩士の若手一主に次男坊だったようですが一30名ほどを集めて軍楽隊を作ったわけです。それが世に言う“Satsuma's Band”です。彼らは英軍楽隊長ジョン・ウィリアム・フェントンの指導の下に横浜本牧の妙香寺で軍楽隊としての技量を磨いていきました。明治5年、帝国海軍の創設とともに海軍軍楽隊も創設され、初代軍楽隊長に中村祐庸が任命されました。これが最初の西洋音楽のバンドになります。

当時、聘門往来などの盛儀大典があるときは各国たがいに国歌を演奏することが外交儀礼上の常識でした。ある時、「日本には国歌がないのか」という指摘を受け明治政府は大いに慌てました。そして、フェントンの国歌を作るように依頼したのです。こうしてできたものが第一の「君が代」で、明治3年のことです。演奏したのは中村祐庸率いる軍楽隊だったのですが、彼はこの曲がどうも日本の国民性に合わない旋律であると思っていたようです。しばらくは第一の「君が代」を演奏していましたが、堪忍袋の緒が切れたのか、明治9年に「天皇陛下ヲ祝スル楽譜改定ノ儀上申」と4か条からなる「改訂見込書」を海軍省に提出し、日本語を理解しないままにフェントンが作曲した旋律の「君が代」の改定を提言しました。中村祐庸24歳の時です。その中には「宮中ニ於テ詠謳セラルル音節ニ協合セシムルヲ以テ改正ノ正鵠トナスベシ」とあり、要するに日本固有の音楽である雅楽をベースに「君が代」をつくるべきということを強調したようです。西洋音楽の先駆者であったはずの中村祐庸ですが、雅楽で演奏する君が代が一番良いという信念から明治13年、中村祐庸を中心に4名の「君が代楽譜改訂委員」が選出され現在の「君が代」が完成しました。この年の11月3日の天長節に宮内省式部寮雅楽課によって宮城内で雅楽により「君が代」が御前で初演され、高評価を得て国歌「君が代」としての地位を確立したのです。

ほとんどの国の国歌は西洋音楽です。日本だけが、こういう国歌を持っています。是非、日本人としての誇りとアイデンティティを持って我々は君が代に接するべきだと思っております。

長野オリンピックの開会式を覚えておいででしょうか。その開会式で国歌「君が代」は雅楽で演奏されました。中村祐庸が思い描いていたとおり、「君が代」は雅楽での演奏であってこそ心に響くものだと私は深く感銘を受けました。2020年に東京でオリンピックが開催されます。ぜひ開会式の国歌演奏は雅楽でやってほしいと中村祐庸の末裔として申し入れたいです。どなたか偉い方よろしく願いいたします。

私は今、パイロットを目指して、頑張ってハワイに行っでやっでおります。父の血筋を継いで簡単に取れるかと思っでおりましたが、大間違いで苦勞してやっでおります。バンドも曾祖父の意志を継いでバンドを組んでしっかりやっでおります。

これで私の卓話は終わらせていただきます。皆様、ご清聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 小林 会長

週報担当 臼井 健